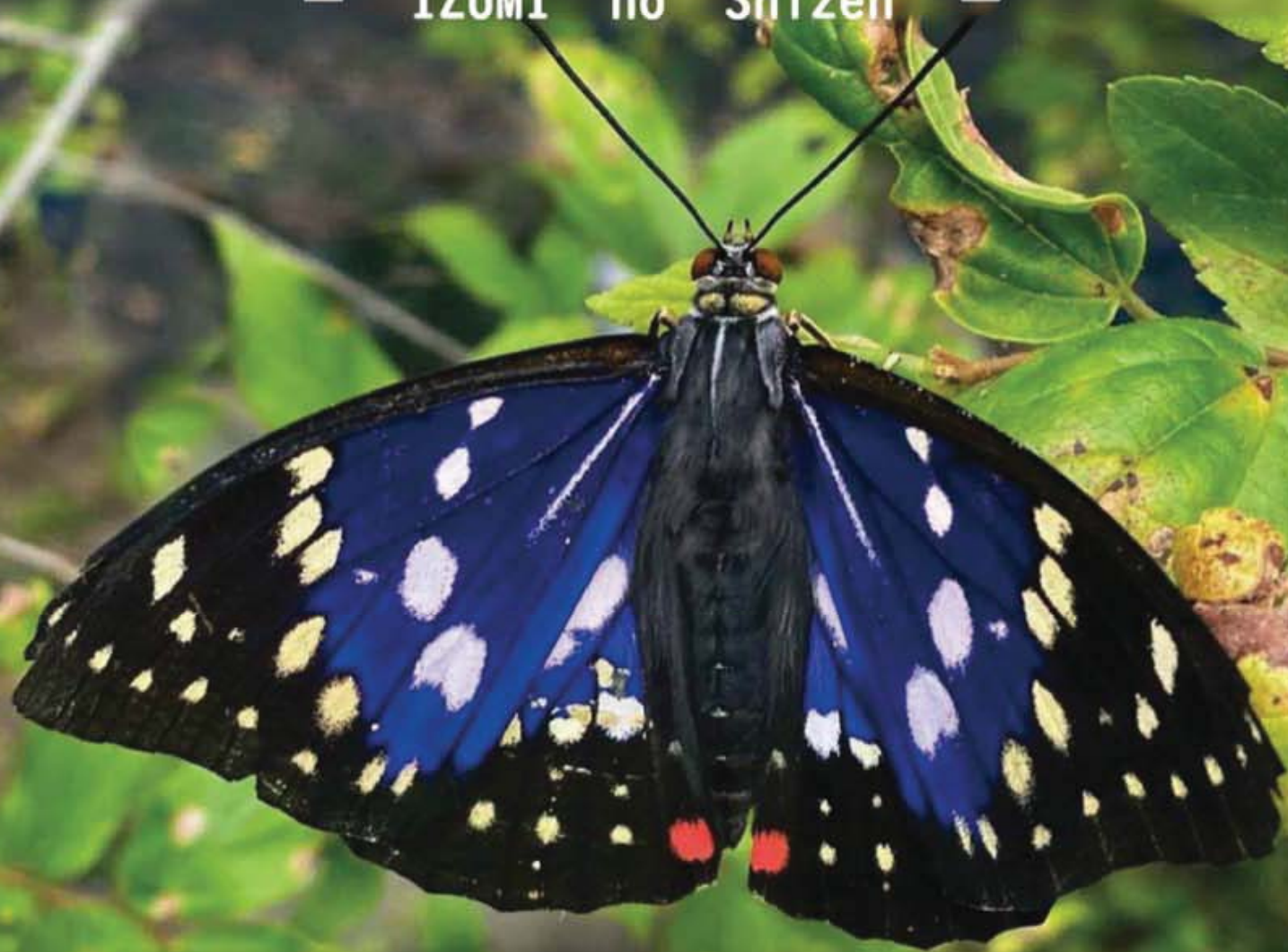


南部版

和泉の自然

— IZUMI no Shizen —



しぜんかんきょうちょうさ
自然環境調査

平成 20 (2008) 年～令和 4 (2022) 年

ほんしょ
本書について



本書は、和泉市の
南部地域の内容を
けいさい
掲載しております。

和泉市では平成20年度から市内の自然環境を調べています。平成25年度からは一辺1kmの四角形（メッシュ）で市内を区切り、その中の生き物を順に調べています。みなさんもぜひ身近な生き物を調べてみましょう。

南部地域の自然環境

南部地域は山が多く、槇尾川上流の父鬼川や東槇尾川周辺の清流はカワガラスやカワセミなどの貴重な生息地になっています。

槇尾山や父鬼町周辺の山はスギやヒノキの植林が多いのですが、自然のままに残されているところもあり、森や林に住むたくさんの生き物が暮らしています。なかでもオオムラサキ、ミスジチョウ、ムカシトンボ、クマタカ、サシバ、マホロバサンショウウオ、ムササビ、クモラン、セトウチホトトギスなど、多くの絶滅危惧種が見られ、和泉市内で最もたくさんの種類の生き物が見られる地域になっています。ただ、この豊かな自然の残された地域にも、外来種のムネアカオ



クジャクシダ（イノモトソウ科）



ツチアケビ（ラン科）



アケボノソウ（リンドウ科）



ミスジチョウ（タテハチョウ科）

オクロテントウや、^{つしま みやざきけん きゅう}対馬や宮崎県など九州の一部にしかいないはずのタイワンオオテントウダマシが見つかったり、シラホシムグラや^{とくていがいらいせいぶつ}特定外来生物のナルトサワギク、ソウシチョウなどが見られるようになりました。

父鬼川の上流は^{たいせつ すいげん}大切な水源になっていますので、^{ぜったい}絶対ゴミなどで^{よご}汚さないように気をつけましょう。



☆☆☆☆
ヒメサナエ (サナエトンボ科)



☆☆☆☆
アゲハモドキ (アゲハモドキガ科)



☆☆☆☆
ミドリカミキリ (カミキリムシ科)



☆☆☆☆
ノスリ (タカ科)



☆☆☆☆
トラツグミ (ヒタキ科)



☆☆☆☆
シメ (アトリ科)

ぶんるい 分類	市内全域のデータ		南部地域のデータ	
ほにゅうるい 哺乳類	10 科	14 種	8 科	10 種
ちょうるい 鳥類	43 科	122 種	34 科	81 種
りょうせいるい 両生類	7 科	12 種	4 科	8 種
はちゅうるい 爬虫類	9 科	15 種	7 科	12 種
こんちゅうるい 昆虫類	170 科	799 種	119 科	427 種
しょくぶつ 植物	170 科	1404 種	153 科	1091 種
ごうけい 合計	409 科	2432 種	325 科	1629 種

※このリストは平成 20(2008)年～令和 4(2022)年の調査結果をまとめたものです。



オオハナウラビ (ハナヤスリ科)

秋に葉と孢子葉を出し、春には枯れます。直立しているのが孢子葉です。



クモラン (ラン科)

葉はなく根で光合成をする着生ランで、初夏に1mmほどの花を咲かせます。



ナンゴクウラシマソウ (サトイモ科)

葉は細くて白い筋があり、暗い林の下で春に不思議な形の花を咲かせます。



セトウチホトトギス (ユリ科)

少し明るい林の中で、秋に斑点があり中心が黄色い花を咲かせます。



ジロボウエンゴサク (ケシ科)

早春の明るい森の中で花を咲かせます。種はアリが運んでくれます。



ヒメレンゲ (ベンケイソウ科)

水しぶきがかかる溪流の岩の上に群生して、早春に黄色の花を咲かせます。



カキノハグサ (ヒメハギ科)

葉はカキノ葉に似ていて、初夏にマメの花に似た花を咲かせます。



シハイスミレ (スミレ科)

早春に森の中で赤紫色のきれいな花を付けます。葉の裏側が紫色をしているのが特徴です。



ゴマダラオトシブミ (オトシブミ科)

クリやクヌギの葉を巻いて中に卵を入れた揺りかご（落とし文）を作ります。



マスダクロホシタマムシ (タマムシ科)

宝石のように美しいタマムシですが、小さくてなかなか見つかりません。



オオムラサキ (タテハチョウ科)

日本の国蝶。表紙は雄で紫色が美しく、写真は黒っぽい雌です。幼虫はエノキを食べます。



アカシジミ (シジミチョウ科)

幼虫はコナラやクヌギの葉を食べます。後翅に触角のような突起があります。



ミヤマカワトンボ (カワトンボ科)

溪流に住み、ひらひらと低く飛びます。翅の先にこげ茶色の帯があります。



ミヤマアカネ (トンボ科)

翅の途中に帯があるアカトンボ。雄は身体が真っ赤になります。



ムカシトンボ (ムカシトンボ科)

生きた化石と言われる原始的な特徴を持ったトンボ。幼虫は5年以上かかって親になります。



アシグロツユムシ (ツユムシ科)

黒っぽい後ろ足がとてもしゃがみ小さいバッタの仲間。敏感ですぐ飛んで逃げます。

オンドリ (カモ科)



ふゆどり おす 冬鳥。雄はイチョウの葉のような だいだいいろ 橙色の羽が 目立ちます。写真の右はめすです。



クマタカ (タカ科)



とても大きなタカで、絶滅危惧種です。ノウサギなどを食べています。



アオゲラ (キツツキ科)



日本特産の大型のキツツキ。森に住み、ピョーという声を出します。



カワセミ (カワセミ科)



飛ぶ宝石と言われる、とても美しい鳥。水に飛び込んで魚を食べます。



カワガラス (カワガラス科)



けいりゅう もぐ 溪流に潜って水中の虫などを食べます。ピッピッと鳴きます。



ルリビタキ (ヒタキ科)



ふゆどり おす 冬鳥。雄がこの青い姿になるには3年以上かかります。



キセキレイ (セキレイ科)



みずべ 水辺に住み、長い尾を上下に振りながらゆっくりと歩いて虫などを食べています。



イカル (アトリ科)



大きな ぐちばし 嘴で堅い実を割って食べます。キーコーキーと目立つ声で鳴き、冬には街中の公園などにもやってきます。





ムササビ (リス科)

昼間は木の穴の中で暮らし、夜に木から木へと滑空して餌を探します。

ニホンアナグマ (イタチ科)



地面に穴を掘って巣穴を作ります。目のところに縦に黒い筋があります。

シロマダラ (ナミヘビ科)



夜行性でとてもおとなしく、なかなか見つけれられません。トカゲなどを食べます。

ニホンマムシ (クサリヘビ科)



有名な毒蛇で、鎖がつながったような大きな丸い紋が特徴です。

タゴガエル (アカガエル科)



春に岩の隙間や穴の中でグググッと鳴くので、びっくりさせられます。



マホロバサンショウウオ (サンショウウオ科)

以前はコガタブチサンショウウオと呼ばれていた小さなサンショウウオです。

ニホントカゲ (トカゲ科)



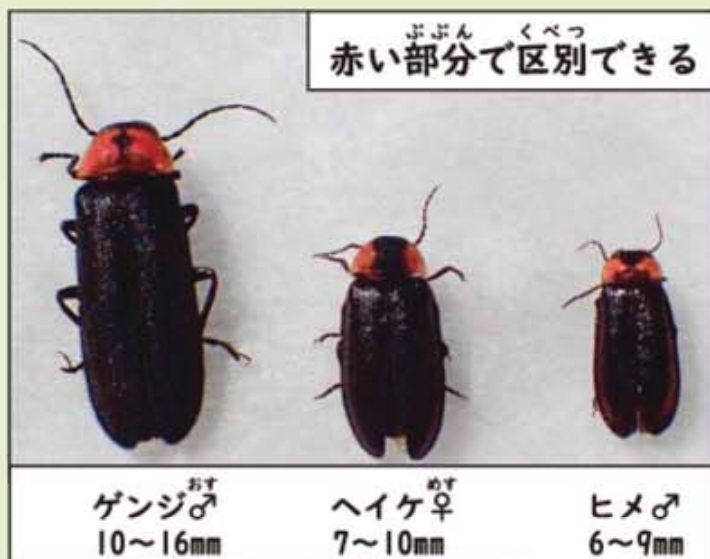
こどもの時は尾が青くてしま模様がありますが、おとなになると全身が茶色に変わります。触るとぬめっとした感じがします。

ニホンカナヘビ (カナヘビ科)



ニホントカゲに似ていますが、こどももおとなも茶色でかさかさした感じです。尾が身体よりかなり長いのが特徴です。

ホタルを調査しよう



ゲンジボタル(人気種)

5月下旬から数秒間隔でゆっくり明るく光り、比較的美しい川に
いるカワニナという巻貝を食べます。

ヘイケボタル(希少種)

5月頃からやや弱く約1秒間隔で光り、
人里近くの水田の周りや溝などに住む小さな巻貝を食べます。

ヒメボタル(希少種)

チカチカと短い間隔で明るく光り、陸
に住む小さな巻貝を食べます。メスは飛
べないので住む場所が荒らされると消え
てしまうことから、自然環境を調べる
目印になっています。

南部のホタルまとめ

川沿いに広くゲンジボタルがいます。ヘイケボタルは小川や田
んぼ周辺、住宅地の溝などを探せばいます。ヒメボタルについ
ては小野田町周辺までは平地型が、槇尾山や父鬼周辺の山では
深夜に光る山地型がいます。



平地のヒメボタル：5月中旬
に川沿いの竹林でチカチカと光
ります



山間部のヒメボタル：7月上旬
の深夜に杉林でチカチカと光り
ます



ノハカタカラクサ (ツユクサ科)

南アメリカ原産。園芸店で売られていたものが野生化して広がっています。



シラホシムグラ (アカネ科)

ヨーロッパ原産。花が白くて葉の付け根に毛がいっぱい生えています。



タイワンオオテントウダマシ (テントウムシダマシ科)

本州にいないはずのこのカラフルな虫が、なぜここにいたのかは調査中です。



特 ソウシチョウ (チメドリ科)

東南アジア原産。飼い鳥として飼われていたものが野生化して、ササ藪などで繁殖しています。



アレチヌスビトハギ (マメ科)

北アメリカ原産。夏から秋に花を咲かせ、実は連なって服にくっつきます。



特 ナルトサワギク (キク科)

南アフリカ原産。冬でも花をずっと咲かせて、どんどん種を飛ばします。



ムネアカオオクロテントウ (テントウムシ科)

東南アジア原産。クズという植物にいるマルカメムシを食べます。



コジュケイ (キジ科)

中国南部原産。狩猟のために持ち込まれました。「チョットコイ、チョットコイ」と聞こえる大きな声で鳴きます。

特：特定外来生物

特 クビアカツヤカミキリ^{ちゅうい}に注意しましょう

クビアカツヤカミキリは、サクラ・モモ・ウメなどのバラ科植物^{しよくぶつ}の大害虫^{がいちゅう}で、移動や飼育等が原則禁止である特定外来生物^{とくていがいらいせいぶつ}に指定^{してい}されていて、近隣市^{きんりん}などでも大問題^{もんだい}になっています。

和泉市でも、令和3年から市内各地^{かくち}のサクラ、ウメ、スモモなどで発見^{はっけん}され始め、被害^{はじ}が少しずつ広がっています。

木の幹^{みき}から右の写真^{しやしん}のように、うどんのよう^{ようちゅう}な木くず(フラス)が出ていたら、幼虫^{しょうこ}が木の中^{しょうこ}にいる証拠^{しやうこ}です。クビアカツヤカミキリを見つけても絶対に持ち帰^もってはいけません。もし、公園などで発見した場合は、和泉市環境保全課までご連絡ください。



さんこうとしょ 参考図書

大阪府野生生物目録（大阪府）

河川水辺の国勢調査のための生物リスト（国土交通省）

わが国の生態系などに被害を及ぼす恐れのある外来種リスト（環境省）

決定版日本の野鳥 650（平凡社）

日本のトンボ（文一総合出版）

フィールドガイド日本のチョウ（誠文堂新光社）

改訂新版日本の野生植物（平凡社）

日本帰化植物写真図鑑（全農教）

※この資料は 500 部作成し、一部当たりの単価は 97.1 円です。



南部版

発行：令和5（2023）年3月
和泉市 環境産業部 環境保全課